

<金標準、再度 11000 円を確認する値動きに注意・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合で市場の思惑である国債買い入れ額縮小を飛び越えて、政策金利を0.15%引き上げ0.25%へ変更する動きに利上げへ傾いたサプライズの姿勢を受け、またパウエルFRB議長はFOMCで9月に利下げを行う事を市場に示唆したが、ISM製造業景気指数が予想外の大幅低下、雇用統計でも労働環境が急速な悪化を示唆するなど、米国経済に対するリセッション・リスクが高まりを示すと、為替市場における円キャリーの巻き戻しを受け141円まで円高の動きに、日経平均が4700円安を行うなどパニック売りが拡大し、金価格は換金売りに押されて金標準先物は10804円まで2日間で1058円の下落を見せている。ただ内田日銀副総裁が講演で「リスクが高い時に金利は引き上げない」と市場の思惑を否定し、ISM非製造業景気指数が予想外の景気回復を示した事でリスクの巻き戻しを見せている。しかし円キャリーの巻き戻しは依然と続いており、円安の恩恵は難しい状況である事から再度11000円を試す戻り売りの値動きには注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の週足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルも切り下げている。RCIでも短期が下げながら、長期も下げている。特に週足が10週移動平均線を下回り、テクニカルで示す40週移動平均線へ向けた下値模索に注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,380,000 円(2024 年 8 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 8 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>